

## 第7節 幼児理解に基づいた評価

### 1 幼児を理解するとは

幼児を理解するとは、一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言葉や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その幼児のよさや可能性を理解しようとすることである。そのため、教師が幼児と生活を共にしながら、その幼児が今、何に興味をもっているのか、何を表現しようとしているのか、何を感じているのかなどをとらえ続けていくことが大切である。また、幼児の発達の理解を深めるためには、教師が幼稚園生活の全体を通して幼児の発達の実情を的確に把握することや、一人一人の幼児の個性や発達の課題をとらえることが大切である。

#### 幼児理解

よさや可能性を理解しようとするためには

○その幼児の心の世界を推測してみる。



○推測したことを基にかかわってみる。



○反応から新しいことが推測される。

### 2 幼稚園における評価とは

幼稚園における評価とは、幼児を他の幼児と比較して優劣を付けて評価することではない。保育の中で幼児の姿がどのように変容しているかをとらえながら、そのような姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうかを検討して、保育をよりよいものに改善するための手掛かりを求めることが評価である。そのため、保育における評価は、幼児の発達する姿をとらえることと、それに照らして教師の指導が適切であったかどうかを反省・評価することの両面について行う必要がある。

#### 保育における評価とは



保育と評価は常に一体  
日常的なこと

### 3 幼児一人一人の発達の理解に基づいた評価の実施に当たっての配慮事項

- (1) 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにすること。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評価によって捉えるものではないことに留意すること。
- (2) 評価の妥当性や信頼性が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。

『幼稚園教育要領 第1章 第4 4』

#### (1) について解説

指導の過程を振り返りながら、幼児がどのような姿を見せていたか、どのように変容しているか、そのような姿が生み出されてきた状況はどのようなものであったかといった点から幼児の理解を進め、幼児一人一人のよさや可能性、特徴的な姿や伸びつつあるものなどを把握するとともに、教師の指導が適切であったかどうかを把握し、指導の改善に生かすようにすることが大切である。

#### (1) について解説

比較し優劣を付け評定することではない

- ・幼児の姿がどのような姿を見せ、どのように変容しているか
  - ・そのような姿がどのような状況で生み出されてきたか等
- よさや可能性、伸びつつある姿を把握

教師の指導が適切であったかどうかを把握し、指導の改善に生かすようにすることが大切

## (2) について解説

評価は、主観を磨きながら、妥当性と信頼性を高めていく必要がある。記録を整理したり、他の職員との話し合いの場を設けたりして、常に自分の見方や考え方を客観視する努力が大切である。例えば、幼児一人一人のよさや可能性などを把握するために、日々の記録や実践を写真や動画などに残し可視化したドキュメンテーション（写真と文で保育の活動や様子を記録し、保育者や保護者などで共有する）や、ポートフォリオ（保育活動の記録や作品などの写真をファイルにまとめ評価の参考にする）などの情報を日頃から蓄積し、複数の教職員で、それぞれの判断の根拠となっている考え方を突き合わせながら同じ幼児のよさを捉えたりして、より多面的に幼児を捉える工夫をする必要がある。

(2) について解説

日々の記録やエピソード、写真など幼児の評価の参考となる情報を生かしながら評価を行う

(2) 評価の**妥当性や信頼性**が高められるよう創意工夫を行い、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、次年度又は小学校等にその内容が適切に引き継がれるようにすること。

\*可視化・・・人の目には見えない事物や現象、関係性を、映像やグラフ・表などにして分かりやすくすること。見える化。

## 4 記録の方法・工夫について

### 保育に生きる記録とは

- ・記録が次の保育の構想につながる
- ・自分の保育の枠や保育観を自覚し、広げることにつながる
- ・幼児の理解を深めることにつながる

どう書けばよいのか？

### 記録の視点

- ・遊びのどこにおもしろさを感じているか
- ・何を経験し、何が育とうとしているか
- ・何がきっかけで変容したか
- ・教師の願い、援助はどのようにしたか、その結果どうだったのか、次の援助は？

保育の記録の仕方にはいろいろあるが、自分が記入しやすい方法・様式で記録を残す習慣をつけることが大切である。

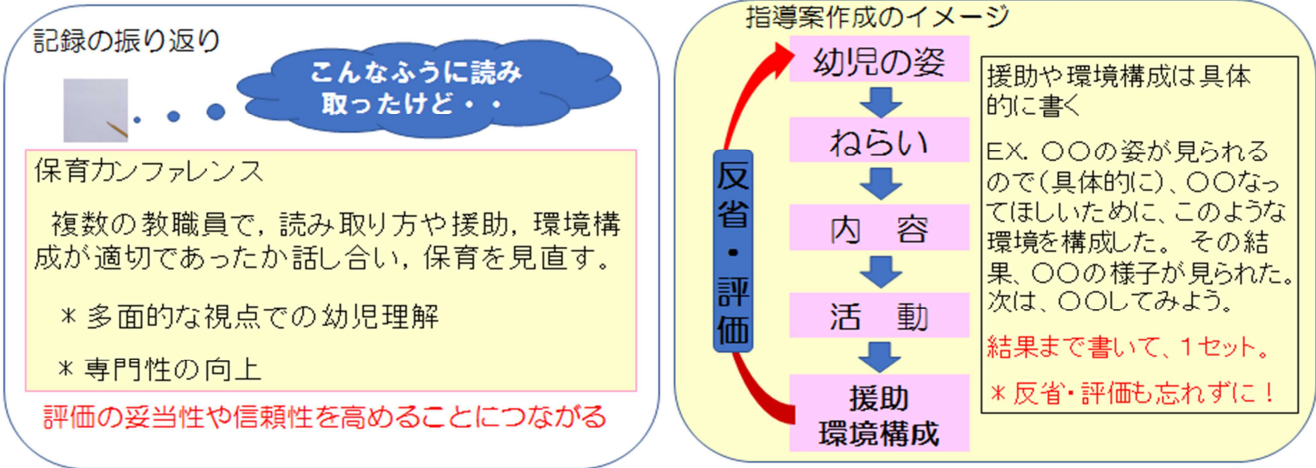
例えば、エピソード記録等、心に残ったことから書いてみる。

### 保育の記録の仕方

- 週日案の反省・記録 → 一日の流れをつかみやすい様式
- 環境図記録 → 全体を広く見やすい様式
- 個人記録 → 一人一人の育ちや課題をよみとりやすい様式

※保育の振り返り、幼児理解や環境の構成が適切であったか評価し、明日の保育へとつなげる。

## 明日の保育へとつながる振り返りの仕方



**週案の「反省・評価」の欄で・・・**

第10週 6月5日～9日(5歳児)

ねらい(抜粋): 園生活の仕方がわかり、約束を守りながら遊びを進めていく。

<反省・評価>

梅雨の晴れ間、園庭で汗をいっぱいかきながら、のびのびと遊ぶ姿が見られる。また、倉庫から道具を自分たちでどんどん出して、ごっこ遊びを楽しんでいる。片付けの様子を見てみると、倉庫の棚に置かれた深さのあるカゴに、使った道具を投げ入れていた。(姿)

子ども達にとっては、入っていたカゴが深すぎたようだ。(実態の把握)

そこで、あらかじめ道具入れのカゴを倉庫の外へ出し並べて置いてみた。(改善)

すると、取り出し・片付け、共にスムーズに行えている様子である。(結果)

子ども達の活動の様子をしっかりと捉えながら、環境の工夫と再構成を行いたい。(次に向けて)

**【保育記録の記入例】**

5月10日(金)

今日のHちゃんは、朝からずっとAちゃん達の遊びを傍観してにこにこしており、見ても一緒に遊びたいという想いが伝わってきた。どうするかな?と見ていたら、私に「仲間に入りたい」と言って来た。私の後ろに隠れて様子を見ていたHちゃん、Aちゃんに「いいよ!」と言われ、ホッとした様子であった。

不思議だったのが、この中で遊びをリードしているのがAちゃんだとしっかり意識していたことである。子どもなりに短い時間の中で、遊びの中のリーダーを察知しているのだと思った。来週からの仲間関係が楽しみである。4歳児(2年保育)

記録を振り返って、こんな記載があればもっとよかったな・・・

OH ちゃんの仲間関係の始まりの日、H ちゃんや遊びの様子が書かれていると、次への具体的な援助につながったであろう。また、「・・・楽しみである。」だけではなく、来週の具体的な願いやH ちゃんだけではなく、周りの子の様子や育ち、関係性にも目を向けた記録を追加→ここから次への保育の展開へとつながっていきます。

OH ちゃんは、A ちゃんと遊びたかったのか?遊びが気に入ってしたかったのか?→幼児理解を振り返ることで次回の援助へとつながっていきます。